

“カンジダディテクター”Q&A

Q1：カンジダディテクターとは？

A1：本品は、日常臨床の口腔ケアの評価方法の一つとして開発されたカンジダ菌の選択培地です。

本培地はサブロー培地を基本とし、採取された検体に混在する細菌類が発育せず、カンジダ菌を選択的に検出するように発育抑制剤が添加された培地です。

コロニー数による判定のみ、恒温槽がなくても室温での判定が可能です。

また、恒温槽による場合は特殊指示薬を含有しているため、コロニー数と色変化の2種類により、容易にカンジダ菌を検出判定することができ、患者への視覚効果が大きくなります。

Q2：カンジダ菌とは？

A2：カンジダ菌とは、健康者の口腔、腸、膣などに存在する常在菌の1つで、口腔内では舌表面、頬粘膜やプラークから検出される酵母状真菌です。カンジダ菌による感染症状は、感染部位によって異なり、表在性感染の場合は偽膜などの病変を直接認めますが、深在性感染の場合は特長的な症状に欠け、原発感染としてよりも、ほかの疾患に続発する場合があります。（菌交代現象、日和見感染）

Q3：カンジダ菌の種類は？

A3：口腔内では、もっとも病原性の高い *Candida albicans* (カンジダ アルビカンス) が約80%を占め、次いで *C.glabrata* (カンジダ グラブラータ) や *C.tropicalis* (カンジダ トロピカリス) が検出されます。

本培地ではこのような真菌が検出されますが、菌種の同定はできません。

Q4：口腔ケアの評価方法としてカンジダ菌の検出は？

A4：口の中には健康な人でもたくさんの細菌が常在菌として存在しています。

歯ブラシなどで常に口の中の衛生状態をきれいにし、細菌の数を一定量以下に保つことは、むし歯や歯周病予防などに重要なことであることは良く知られています。また近年、カンジダ菌によるリスクは義歯性口内炎のみならず、口角炎、舌痛症などの口腔疾患、および誤嚥性肺炎や敗血症などの一因になるともいわれ、口腔清掃を行うことによりカンジダ菌をコントロールすることは、これらの疾患を予防することにもなります。口腔内が不潔になると増加するこのカンジダ菌を調べることにより、口腔ケアの評価をすることができます。

Q5：カンジダ菌のコロニー性状について

A5：カンジダ菌は、検体を採取した綿棒（スワブ）で塗布した幅に応じてコロニーが発育しその色調はクリーム色（黄色がかった白色）を呈し、中央が盛り上がった円形のコロニーを作ります。なお、カンジダ菌の菌種によっては黒褐色・灰黒色がかったクリーム色を呈することがあります。

また、長時間培養しますと、カンジダ菌1個で1つのコロニーを形成しますが、1つずつの円形のコロニーが大きくなり、互いに癒合せず連続的に発育します。

Q6：使用上の注意について

A6：1. 保管方法は、遮光して必ず冷蔵庫保管（但し、凍結厳禁）してください。

直射日光や温度の高い場所での保管は、培地が黄変して色判定ができなくなりますのでご注意ください。

2. 万一、使用前にカビ等の発育が認められる場合は使用しないでください。

3. 使用時以外、バイアル瓶の蓋および綿棒の袋は開封しないでください。

4. 凝固水による寒天培地表面のブツブツは、使用上問題ありません。

5. 検体塗布後のバイアル瓶は、コロニー判定を明瞭にするため直立状態を保つようにしてください。